

B-46 女児服の服飾実態調査

共立女子大 深山 静枝
○藤田 信子

1. 女児服の着用期間は非常に長く、2, 3歳から14, 5歳までの心身の発達のもっとも著しい期間にあたる。これらの人たちにどのような服が好まれて着用されているのか、また、女児服の選択にあたってその成長を妨げないということの理解を基礎としているかどうか、その資料をうるために街頭において季節別、地域別、年齢階層別に本調査を行なった。

3. 調査の地域は都内3カ所を選び、通行中の見かけ年齢2, 3歳から14, 5歳までの女児を対象とした。なお、時期は季節毎に1日、時刻は午前、午後1時間ずつ行なった。調査事項は着用の形式、シルエット、色の系統、柄の種類、衿、袖、スカート、明きの位置、切替の位置その他装飾的なものなど12の項目である。記録の方法は、各項目毎にその内容を書き出した調査票を用意し、該当個所に○印をするようにした。

3. 過去5ヵ年の調査の結果、若干の資料をうる事ができたが、女児服のデザインについては一般の好みの傾向をかなりはっきり知ることができたので、特に夏季のものについて具体的に報告する。